令和7年度

教育総務部 教育総務課の方針書

組織名	教育総務部 教育総務課
所属長名	木村　智子

1. 組織の使命（ありたい姿）

「郷土を愛し、共に語り、共に未来を切り開く人を育てるまち、横手」を実現するため、横手市教育委員会の要となって円滑な事務局運営に努め、児童生徒が安全で安心して学べる教育環境の整備を推進します。

2. 組織の抱える課題（現状）

・学校施設の長寿命化、老朽化対策など、安全で安心な教育環境の整備を進めなければならない。

・第2期となるGIGAスクール構想での端末整備を遅滞なく進めなければならない。

・横手市学校情報化推進計画の更新と合わせ、学校ICT環境の充実を図る将来的な方針を定めることが求められている。

・「教育ビジョン」をはじめとする各種計画の更新時期を迎えている。

3. 今年度の『スローガン』

力を結集して教育環境の充実を進めよう

4. 今年度の方針

・安全安心で快適な教育施設を提供するため、学校施設の長寿命化および老朽化対策を進めます。

・学校ICT環境を適切に維持管理し、校務デジタル化および学校教育情報化を推進します。

・教育委員会の円滑な運営に努め、教育委員会内外の各課と各学校等との積極的な連携を図ります。

・更新時期を迎えた各種計画の策定を進めます。

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	児童生徒が安心して学習できる学校施設の環境整備
	取組内容	・学校施設の健全度を見直し、長寿命化改善計画の策定を進める。 ・醍醐小学校大規模改修工事を完成させるとともに吉田小学校大規模改修工事を実施する。 ・小中学校体育館照明のLED化改修を計画的に進める。
(2)	実現したい成果	学校ICT環境と校務デジタル化の基盤整備
	取組内容	・統合型校務支援システムの導入に取り組む。 ・一人一台端末の計画的な更新を行う。 ・学校情報化推進の将来的な方針を定めた計画を策定する。
(3)	実現したい成果	教育委員会事務局の円滑な運営及び各学校等との積極的な連携
	取組内容	・令和8年度からの「教育ビジョン」策定に向け、市総合計画を踏まえ各課との協議を進める。 ・学校教育を取り巻く諸課題に対し、教育委員会内外各課および小中学校の調整役となる。

6．方針に対する年度上期（4月～9月）の取組状況

（1）児童生徒が安心して学習できる学校施設の環境整備
・長寿命化改善計画更新：資料データの収集、精査を図りながら、策定作業を進めている。
・醍醐小大規模改修工事：工期R6.5.21～R7.8.29　R7.9.12完成引き渡し
吉田小大規模改修工事：工期R7.5.27～R8.8.31　屋根改修、トイレ改修、照明LED化、暖房設備改修ほか
・小中学校体育館照明LED化：横手明峰中、横手北中　工期：R7.8.26～12.15、栄小、大雄小は発注作業に着手

（2）学校ICT環境と校務デジタル化の基盤整備
・統合型校務支援システム導入調整中
・学習用一人一台端末整備事業：県域で共同調達により決定した相手方と議決を経て契約を締結。納入期限R8.1.30
・学校情報化推進計画更新：進捗状況の反映および内容の精査を進めている。

（3）教育委員会事務局の円滑な運営及び各学校等との積極的な連携
・教育ビジョン：次期総合計画の策定体制を活用し、骨子案の作業を進めている。
・R7.5.8学校事務打ち合わせ会議、R7.7.29校務員研修会

7．年度下期（10月～3月）に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

・「第4期横手市教育ビジョン」策定方針に基づき、教育委員会各課と素案策定作業を進める。各所から意見聴取し年度内に最終案をまとめ決定する。合わせて、学校教育情報化推進計画および学校施設の長寿命化改善計画について、教育ビジョンほか関係計画との整合性を図りながら次期計画を策定する。
・吉田小大規模改修工事をはじめ学校施設の各種工事について、施工業者および当該校と綿密な打ち合わせを行い、遅滞なく且つ安全に進めていく。
・統合型校務支援システム導入準備を着実に進める。
・学校ICT環境整備については、各学校へ大型提示装置の追加配置や児童生徒一人一台端末の更新作業など計画的に整備を進め、令和8年度の着実なスタートにつなげる。

8．総括（取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】）

令和7年度

教育総務部 伝統文化課の方針書

組織名	教育総務部 伝統文化課
所属長名	石田　正明

1. 組織の使命（ありたい姿）

市民が地域の伝統文化を身近に感じ、横手に誇りをもって暮らせるようにします。

2. 組織の抱える課題（現状）

・市内の歴史的資源（遺跡・指定文化財・建造物・民俗行事等の歴史文化遺産）の把握及び整理、調査が十分でない。
・市の伝統文化を知る機会の提供が十分でない。
・資料館施設の老朽化への対策と効果的な運営が求められている。

3. 今年度の『スローガン』

地域に息づく伝統文化を共有し、未来へつなげよう

4. 今年度の方針

・横手市歴史文化遺産保存活用地域計画等の進捗管理を基に、市の伝統文化を継承するための基盤強化を図る。
・市内に広がる歴史的資源の把握と詳細調査を進め、成果を基にした価値付けを進める。
・周知発信の取組みを拡大し、市内全域を横手市の伝統文化を学べるフィールドとして活用する契機とする。
・資料館施設の台帳管理と併せ、今後の資料館施設の方向性について検討を進める。

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	横手市歴史文化遺産保存活用地域計画に基づく歴史的資源の保存・活用の基盤強化
	取組内容	①歴史的風致維持向上計画及び歴史文化遺産保存活用地域計画登載事業の推進と進捗管理を行う。 ②市内各地に残る地域固有の歴史的資源に新しい価値づけを図る制度の創設を検討する。 ③歴史的風致維持向上計画及び歴史文化遺産保存活用地域計画の第2期計画策定の準備を進める。
(2)	実現したい成果	歴史文化遺産の把握と調査による伝統文化を象徴する歴史的資源の掘り起こし
	取組内容	①各資料館の台帳整備と併せて、指定文化財の現況確認及び未指定の歴史文化遺産の把握によるリスト化を進め、記録が必要な歴史文化遺産の詳細調査を行う。 ②金沢城跡の総括報告書を刊行し、併せて史跡指定や活用に向けた準備を進める。 ③雄物川地域の後三年合戦関連調査を開始し、今後5か年の調査計画を取りまとめる。
(3)	実現したい成果	横手市に根付いた伝統文化を学べるフィールドの整備
	取組内容	①市民大学講座やまちあるき、資料館特別展等の開催により、歴史的資源や地域に根付いた伝統文化の周知を図る。 ②民俗行事等のデジタル映像の公開活用を進める。 ③FM計画に則り、資料館施設の今後の方向性について検討する。

6. 方針に対する年度上期（4月～9月）の取組状況

(1)横手市歴史文化遺産保存活用地域計画に基づく歴史的資源の保存・活用の基盤強化
①関係部局との情報共有のために歴史まちづくり連絡調整会議を1回開催したほか、歴史的風致維持向上協議会と歴史文化遺産保存活用推進協議会をそれぞれ1回開催し、計画登載事業の推進と進捗管理を実施した。
②他市の事例分析を行い、歴史的資源の新たな価値づけの概要について検討を進めている。
③第1期の歴史的風致維持向上計画と歴史文化遺産保存活用地域計画の推進状況と事業効果の分析を進めている。
(2)歴史文化遺産の把握と調査による伝統文化を象徴する歴史的資源の掘り起こし
①雄物川郷土資料館、ほろわの里資料館収蔵資料の台帳を799件作成した。指定等文化財の所在調査を実施したほか、歴史的建造物リストの更新を進め、無形民俗文化財1件、建造物1件の詳細調査を実施した。開発事業に伴う記録保存を目的とした埋蔵文化財調査は、大雄地域の八柏村表遺跡の発掘調査と、平鹿地域の下村遺跡の整理作業を実施している。
②『金沢城跡総括報告書』を刊行し、指定や活用に向けて、資料館での企画展等や地元向けの調査報告会を開催した。
③沼館城跡に関する文献調査を完了した上で、後三年合戦関連遺跡調査指導委員会設置に向けて検討した。
(3)横手市に根付いた伝統文化を学べるのフィールドの整備
①他事業との連携を図りながら、市民大学講座を3件、まちあるきを2件、雄物川郷土資料館特別展を2回、後三年合戦金沢資料館企画展を1回実施した。このほか、横手市生涯学習館Ao-naで市制20周年記念として蝦夷塚古墳群出土勾玉に関する講座や展示を行い、幅広い年齢層への歴史的資源の周知を図った。
②デジタル映像化済の民俗行事35件については、YouTubeへのアップと各小中学校へ周知を行い、出前講座を1校で実施するなど総合学習等での活用を推進した。また、代表的な民俗行事の実施時期に合わせ「よこてれび」での放映も開始した。
③FM計画に則り、複数の施設の整理統合を見据え、全体的な内部共有を図った。それを基に地域局との個別施設の具体的な協議を開始した。

7. 年度下期（10月～3月）に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

(1)横手市歴史文化遺産保存活用地域計画に基づく歴史的資源の保存・活用の基盤強化
①協議会での評価や意見を分析し、関係部局等と情報共有をしながら両計画登載事業への反映の検討と進捗の推進を図る。
②制度の骨格について方針を定める。
③計画の事業効果と現状の課題を分析し、次年度以降の取組について検討する。
(2)歴史文化遺産の把握と調査による伝統文化を象徴する歴史的資源の掘り起こし
①指定等文化財の現況確認のため、所在調査結果を基に修正作業を行う。詳細調査の結果を基に、指定・登録手続きを進める。歴史文化遺産リストについても所在調査結果等を基に修正作業を行う。八柏村表遺跡は整理作業を進め、下村遺跡は報告書を刊行する。
②金沢城跡については、その価値・評価をわかりやすく伝えるために、後三年合戦金沢資料館の展示見直しや現地説明会などを開催する。
③後三年合戦関連遺跡調査指導委員会を開催し、今後5か年の調査方針について取りまとめる。
(3)横手市に根付いた伝統文化を学べるのフィールドの整備
①地域の歴史的資産等に関連する講座やまちあるき、資料館の展示等を実施し、さらなる伝統文化の周知を図る。
②一般個人向けのYouTube公開については、秘書広報課や専門的知識を持つ業者と意見交換を実施して、対処法を検討する。また、DVD化など市民への発信方法についての検討も進める。
③資料館施設の今後の方向性を決定し、関係部局や地域との協議を進める。

8. 総括（取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】）

令和7年度

教育総務部 図書館課の方針書

組織名	教育総務部 図書館課
所属長名	高橋　秀明

1. 組織の使命（ありたい姿）

教養を高め知識を豊かにする読書活動を推進します。

2. 組織の抱える課題（現状）

・第1次横手市読書活動推進計画をベースとした読書活動の推進
・市立図書館6館体制の運営と機能充実
・図書館情報の発信と利用者の増加

3. 今年度の『スローガン』

全ての市民にとって、より身近な図書館を目指します。

4. 今年度の方針

・第1次横手市読書活動推進計画の基本方針「生涯にわたっていつでもどこでも読書を楽しめるまちづくり」をコンセプトに読書活動を推進していく。
・6図書館と生涯学習館Ao-naが連携した図書館サービスを広く市民に周知し利用者増加を目指す。
・市民に役立つ資料提供やレファレンスサービスなどの図書館機能の充実

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	第1次横手市読書活動推進計画をベースとした読書活動の推進
	取組内容	・「図書館を使った調べる学習コンクール」の新規応募者を増やすため、多くの市民にコンクールについて周知していく。 ・おはなし団体と連携したボランティア研修の実施
(2)	実現したい成果	・Ao-naと6図書館が連携した新しい図書館サービスを広く市民に周知
	取組内容	・生涯学習館Ao-naイベントと連携した企画展示を6図書館連携して行う。 ・様々な情報媒体を使って旬な図書館情報提供と、公式市立図書館✕のフォロワー数の増加（500フォロワー以上）を目指す。
(3)	実現したい成果	市民に役立つ資料提供やレファレンスサービスなどの図書館機能の充実
	取組内容	・限られた予算の中で図書館を利用する市民に必要な資料を厳選し提供する。 ・地域におけるニーズや課題を把握し、特徴を活かした図書館サービスを提供する。 ・全ての図書館資料のICタグ化を計画的に進める。

6. 方針に対する年度上期（4月～9月）の取組状況

（1）・令和6年度からの第1次横手市読書活動推進計画に基づき、関係各所と連携したイベントや企画展示を実施した。
・「第2回横手市図書館を使った調べる学習コンクール」への作品応募のPR活動のため市内高校に訪問した。
・市内読み聞かせボランティア団体を対象に「読み聞かせスキルアップ研修会」を11月に開催するため準備を進めている。
（2）・Ao-naとの連携では、毎月第2.4土曜日のAo-na保健室、6/28-29　YOKOTEモーターフェア、9/13-15Ao-na開館1周年記念イベント、9/13勾玉里帰り展示、9/14 Ao-na開館1周年記念セレモニー及び壇蜜さん朗読会、9/15 Ao-naフェス（ブックフェス対応）などで、関連本の展示やイベントスタッフとして一緒に進めた。
・市ホームページや市報だけでなく、令和5年7月からSNS（✕旧ツイッター）を開始し、6図書館のイベント告知や情報提供をしている。（9/30現在463件）
（3）・限られた予算の中で資料収集方針に基づいた選定を行い、利用者からのリクエストにも応えることにより、市民に必要な資料提供を行った。
・閉架資料のICタグ化をするためスケジュール計画などについて協議し、準備を進めている。

7. 年度下期（10月～3月）に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

（1）・今後も第1次横手市読書活動推進計画をベースとした読書活動を推進する。
・「図書館を使った調べる学習コンクール」「読書に関する作品コンクール」の表彰式を実施する。
・読み聞かせボランティアとの連携を強化し、読書活動の支援を行う。
（2）・生涯学習館Ao-naイベントと連携した企画展示等を6図書館連携で行うほか、情報発信も強化する。
（3）・市民に役立つ資料提供のため、統計データを分析し、ニーズや課題を把握する。
・全ての図書館資料のICタグ化を計画的に進めるための準備を引き続き進めていく。

8. 総括（取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】）

令和7年度

教育総務部 生涯学習課の方針書

組織名	教育総務部 生涯学習課
所属長名	佐藤　直志

1. 組織の使命（ありたい姿）

生涯を通して学び続けることのできる学習環境と、ふるさとに愛着と誇りをもち、互いに磨き合い、未来を切り拓いていく人づくりを目指します。

2. 組織の抱える課題（現状）

・ライフスタイルやライフステージに応じた学習機会を提供するとともに、学んだ成果を「まちづくり・人づくり」に結びつけていく必要性が増してきています。
・Ao-naや市民会館などの所管施設について利便性をより高めるとともに、利用者が安全に安心して利用できる施設管理が求められています。

3. 今年度の『スローガン』

「いつでも　どこでも　だれでも　なんでも」学び合う「まちづくり・人づくり」を進めよう！

4. 今年度の方針

（1）生涯学習の振興と社会教育の推進
・学習の成果を地域活動への参画や社会貢献に活かす環境づくり
・市民協働によるまちづくり活動との連携
（2）芸術文化の振興
・芸術文化に親しむ活動の推進
・市民が成果を発表する機会の創出
（3）所管施設の適正な管理
・施設や設備の適正な維持管理とその魅力アップ

5. 今年度の重点取組項目

（1）	実現したい成果	生涯学習の振興と社会教育の推進
	取組内容	・地域の魅力が再発見できる事業の展開【Ao-na自動車関連企業紹介イベント、文化財の里帰り展示】 ・地域学校協働活動の市民への周知と参画の促進 【コミュニティ・スクールの充実、地域コーディネーター・地区交流センターとの連携】
（2）	実現したい成果	芸術文化の振興
	取組内容	・市制施行20周年記念イベントの開催【宝くじ文化公演】 ・児童生徒への良質な音楽や演劇などに触れる機会の提供 【公共ホール音楽活性化支援事業（通称おんかつ支援）、県青少年劇場】 ・市民の芸術文化活動の支援【市民ステージ祭、交流美術展】
（3）	実現したい成果	所管施設の適正な管理
	取組内容	・Ao-naのコンセプト「～人と人とが『つどい、つながる』交流拠点～」に沿った維持管理 ・市民会館改修に向けた調査 【耐震診断及び耐震改修設計業務委託、冷温水発生機真空漏れ調査業務委託】

6．方針に対する年度上期（4月～9月）の取組状況

（1）生涯学習の振興と社会教育の推進
・Ao-naにおいてYOKOTEモーターフェアを開催したほか、送り盆まつりや勾玉の里帰り展示に関連した事業を展開し、賑わいの創出にも努めた。
・地域学校協働活動について市報特集記事として掲載したほか、チラシやハンドブックを作成し、機会を捉えて説明し理解促進に努めた。
（2）芸術文化の振興
・市民会館において市制施行20周年記念のNHK公開番組の収録を行い、出演者のよどみなく繰り広げられる舞台トークを多くの観覧者が堪能した。
・県青少年劇場を市民会館において複数校合同で開催し、高揚感に包まれる環境の中で鑑賞マナーなど児童生徒の社会性も育んだ。
（3）所管施設の適正な管理
・Ao-naにおいて定期的又は集中的にメンテナンスを実施し、適正な管理に努めた。
・市民会館の耐震診断及び耐震改修設計業務委託を発注したほか、冷温水発生機真空漏れ調査を行い、原因を特定して部品取替修繕を実施した。

7．年度下期（10月～3月）に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

（1）生涯学習の振興と社会教育の推進
・主催するコミュニティ・スクール研修会はもとより、生涯学習や社会教育に関する研修が多く予定されていることから、多くの関係者の参加を促し、それぞれの能力や技術の向上に資する。
（2）芸術文化の振興
・市制施行20周年記念の宝くじ文化公演の開催に向けて、滞りなく準備を進める。
・おんかつ支援コンサートは高校生以下が入場無料であることから、より多くの児童生徒が鑑賞できるよう働きかける。
・市民ステージ祭、交流美術展において、お互いに讃え合えるよう出演・出展者及び多くの市民の鑑賞を働きかける。
（3）所管施設の適正な管理
・市民会館の耐震診断の結果を受けて、今後の運営について協議を進める。

8．総括（取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】）

令和7年度

教育総務部 スポーツ振興課の方針書

組織名	教育総務部 スポーツ振興課
所属長名	進藤　倫啓

1. 組織の使命（ありたい姿）

市民一人ひとりがスポーツに親しみ、様々な楽しみ方によって健康で活力ある生活を送ることができるよう、スポーツに触れるきっかけづくりや、安全で利用しやすい施設環境の整備を行います。
また、スポーツを核とした企画やイベント等を通して、交流人口の拡大や地域経済の活性化、地域の一体感の醸成など、人とまちを動かす取り組みを推進します。

2. 組織の抱える課題（現状）

・第７次スポーツ推進計画の計画期間（令和３年度～令和７年度）最終年度となります。計画に定めた施策にかかる評価・点検を踏まえ、次期計画に向けた事業の精査・見直しが必要です。
・新型コロナウイルスの流行の前後で、市民一人ひとりのスポーツや健康活動に対する意識に変化が生じています。様々な活動制限やイベント等の中止が行われた中で、スポーツに触れるきっかけを得られなかった人を考慮した働きかけが必要です。
・部活動の地域展開などの課題に対し、地域の実情に応じた取り組みの検討が必要です。
・市民ニーズや現在求められるサービス水準に対応した施設の改修、備品の更新等を計画的に行う必要があります。

3. 今年度の『スローガン』

「安全第一、品質第二」
様々なスポーツの楽しみ方を自ら体感し、整え、伝えよう

4. 今年度の方針

①市民一人ひとりの楽しみ方に応じたスポーツ活動や健康活動ができるよう支援をします。
②安全で様々な楽しみ方に対応したスポーツ環境を整えます。
③スポーツを核とした企画やイベント等を通して、交流人口の拡大や地域経済の活性化を図ります。

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	市民一人ひとりの楽しみ方に応じたスポーツ活動や健康活動ができるよう支援をします。
	取組内容	・ラジオ体操チャレンジデーやニュースポーツの普及、介護予防に資するフレイル予防など、市民が気軽に参加できる機会の提供 ・事業推進や課題解決に向けたスポーツ推進委員や関係団体等と連携体制強化 ・スポーツに関する情報発信 ・競技力の向上や競技人口の拡大、指導者の養成を目的としたトップアスリートによる講習会等の開催
(2)	実現したい成果	安全で様々な楽しみ方に対応したスポーツ環境を整えます。
	取組内容	・横手市立体育館の備品購入と市内スポーツ施設の備品点検 ・横手市立体育館への指定管理者制度の導入と円滑な開館準備 ・グリーンスタジアムよこてのスコアボード改修 ・スポーツ施設の安全で快適な利用を図るため、適切な管理運営と維持管理を実施する ・スポーツ施設の機能点検と中長期的な配置検討
(3)	実現したい成果	スポーツを核とした企画やイベント等を通して、交流人口の拡大や地域経済の活性化を図ります。
	取組内容	・天皇賜杯全日本軟式野球大会の受け入れ体制の整備 ・プロスポーツの観戦機会の創出（Wリーグ、プロ野球イースタンリーグ等） ・スポーツを核とした地域の一体感の醸成（地域クラブのプロリーグ参入に向けた広報や支援等） ・スポーツ合宿の受け入れと誘致活動 ・スポーツを核とした交流人口の拡大、地域経済の活性化に向けた仕組みの検討

6. 方針に対する年度上期（4月～9月）の取組状況

（１）スポーツ推進委員や横手市スポーツ協会、関係団体等と連携のもと、ニュースポーツをはじめとしたスポーツの普及に取り組んでいる。令和８年度からの５年間を計画期間とした第８次横手市スポーツ推進計画について、作業部会の開催などを経て策定作業が順調に進んでいる。
（２）グリーンスタジアムよこてのスコアボード改修工事により、施設機能が大幅に向上している。第８次横手市スポーツ推進計画の策定作業の中で、既存のスポーツ施設の役割の整理や現状把握に努めている。
（３）７月26日に開催されたプロ野球イースタン・リーグ公式戦、９月５～10日に開催された天皇賜杯全国軟式野球大会では、球場の整備及び円滑な運営につながる支援を実施した。８月に受け入れを行ったスポーツ合宿の対応と合わせ、交流人口の拡大と地域経済の活性化につながる取り組みが順調に推移している。

7. 年度下期（10月～3月）に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

（１）スポーツの普及拡大にはニーズにそった新たな取り組みと多様な実施主体による活動推進が重要である。あらゆるスポーツ資源を活かした効果的な活動につなげるため、既存事業の見直しを含め、横手市スポーツ推進計画の体系にそった取り組みを整理する。
（２）今年度のスローガンに掲げる「安全第一」を実現するためには、建物や備品にかかる安全性の担保が不可欠である。利用者のニーズを考慮した修繕や備品の更新が図られるよう、各施設に求められるニーズに対応した対策を進めるとともに、横手市立体育館の開館準備を着実に進める。
（３）令和８年度以降に需要増が見込まれるスポーツ合宿やスポーツ大会、イベント等に対応するため、受け入れ体制のシステム化や支援内容の平準化、周知等の検討をさらに進めていく。

8. 総括（取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】）